

## 海外安全対策情報（平成30年度第3四半期：平成30年10～12月）

### 1 社会・治安情勢

11月、マシシ大統領は就任後初めてとなる議会での所信表明演説を行い、雇用創出や経済多角化等の従来から主張してきた政策を改めて強調した。世界銀行が発表したDoing Business報告書において、ボツワナは若干順位を落としたが、アフリカ諸国の中では7番目に高い順位に位置づけられており、経済見通しに大きな変化はなく、若年層を中心とする高い失業率等の問題はあがあるが、社会情勢は引き続き落ち着いている。政権与党においては、マシシ現大統領とカーマ前大統領との確執が尾を引いており、12月にはカーマ前大統領に近いとみられていた閣僚が次期党首への立候補の意向を表明し、即座に閣僚を解任されるなどの動きがみられ、党内は盤石な体制とは言えず、今後の政治動向が社会情勢に与える影響には引き続き注意が必要である。

### 2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 例年12月の休暇シーズン前には犯罪が増える傾向にあるとみられるが、正確な統計、犯罪の傾向等は発表されていない。犯罪発生件数は高い水準で推移しているとみられ、引き続き注意が必要である。

#### (2) 邦人被害事案

- ・10月の日中、邦人がレストランを利用しようとして自家用車をCBDエリア内のアイ・タワーズ北東側の路上駐車場に駐車し、約30分後に戻ったところ、運転席側鍵穴が特殊な工具で壊されていた。
- ・12月の早朝、ハボロネ市内の戸建て住宅に居住する邦人が、玄関を開けて外へ出たところ、マスクを被った3人組の男に取り囲まれた。犯人は、ライフル銃のようなもので被害者を脅し、現金、電化製品を奪い、被害者の車両で逃走した。

#### (3) 邦人以外の被害事案

各種の一般犯罪、殺人等の凶悪犯罪が報告されている。現地警察はコミュニティーレベルでの防犯教育に努力し、スマッシュアンドクラブ事件に対する具体的な予防措置等と呼びかけている。外国人の被害として目立った事案は確認されていない。

### 3 テロ・爆弾事件発生状況

テロ事件に相当する事案は確認されていない。

### 4 誘拐・脅迫事件発生状況

外国人の被害は確認されていない。

#### 5 日本企業の安全に関わる諸問題

対日感情は引き続き良好で、大きな変化はなく、日本企業が犯罪の標的とされる可能性は低いと考えられる。